

その人の幸せを感じるポイントを探し 人生の可能性を広げる手助けを。

QOL向上をもたらす鍵は。

自分の足で立てるようにになりたい、というご本人の要望から始まった施術でしたが、ご本人や奥様、ケアマネジャー様とその人らしく生活するために何が必要か考えていった結果、当初はあまり問題視していなかった極度の円背に対してアプローチすることになりました。強度な前屈姿勢の矯正は難しい点もありましたが、その後姿勢の改善が図られ、上肢を自由に使えるようになりました。それらにより、自分でできることを増やしたいという意欲が増し、施術師との非常に厚い信頼関係構築にもつながりました。癌の進行による身体状況の悪化にも負けず、疼痛改善による終末期のメンタルケア効果もあり、初期に形作られたQOLを維持し、穏やかな生活を保つことに成功しています。



名古屋営業所 木股相談員

病状の変化にも対応した、多角的なアプローチ。

今回のケースは、施術によってADLが向上した後に癌が進行し、ADLと身体状況の悪化という経過をたどりながらも、一貫して取り組んできたQOL向上のための支援が奏功して穏やかな生活を安定することができた事例になります。病状の変化がご本人だけでなく奥様の負担や不安へと結びつく中、状態に応じた施術・指導・相談など多角的な取り組みにより、ご夫婦ともにQOLを維持することにつながりました。初期から緩和ケア期に至るまでの施術のポイントに焦点を当てました。



まずは自分の力で立つことを目標に、下肢のマッサージ運動法を実施。



ご本人らしい生活を取り戻すために、必要と判断した円背へのアプローチ。

〈初期目標〉

下肢筋力低下予防・メンタルケア・座位バランスの安定化

〈中長期目標〉

QOLの維持・身体状況の維持

【治療内容】

まずは下肢のマッサージや関節のリラクゼーション、足や股関節などの運動から治療をはじめ、改善が見られるようになってからはさらに座位での姿勢保持機能の維持・向上を目標にプッシュアップなども取り組んでいただきました。ご本人だけでなく奥様も交え、介護指導を实施了しました。

その後、癌の進行と共に緩和ケア期に入られたことから、疼痛を軽減しQOLを維持する方針に切り替えました。さらに、ご本人だけでなく奥様のQOLの維持も非常に重要と考え、相談支援につとめました。

ご利用者 K様(73歳・男性)

傷病名：腰椎圧迫骨折 前立腺癌

パーキンソン病・脳梗塞

長年の生活習慣からの円背状態が、圧迫骨折により悪化し筋力も低下していました。また足のふらつきから、パーキンソン病が発覚し、

両側脳深

部刺激装

置を装着

されてい

ました。

ご利用者からのニーズ

最初は、自分の足で立ちたいという願いから。

当初、ご本人からは自分の足で立てるようにになりたい。というニーズが聞かれました。ご家族は自宅で生活させたいので介護負担を減らしたいとお考えで、ケアマネジャー様からもご本人に加えご家族の介護技術指導についての要望がありました。また余命3か月という診断があったため、QOLの維持が重要な課題となりました。



■自分でコップを持って、大好きなコーヒータイム。

生きる気力が生まれる施術。奥様の相談相手にも。

姿勢が以前より改善したことで手が自由に使える、ものが持てるようになり、ものづくりもできるようになりました。生きて行く中で楽しみや喜びが増え、施術師の訪問そのものがご本人の生きる気力を産み出しているようでした。奥様にとっては施術師はご主人の体の変化を身近で把握している相談相手。何でも話せる関係が心強いとお言葉をいただきました。初期から緩和ケア期までの関わりを通し、私たちにとても貴重な経験となった事例です。